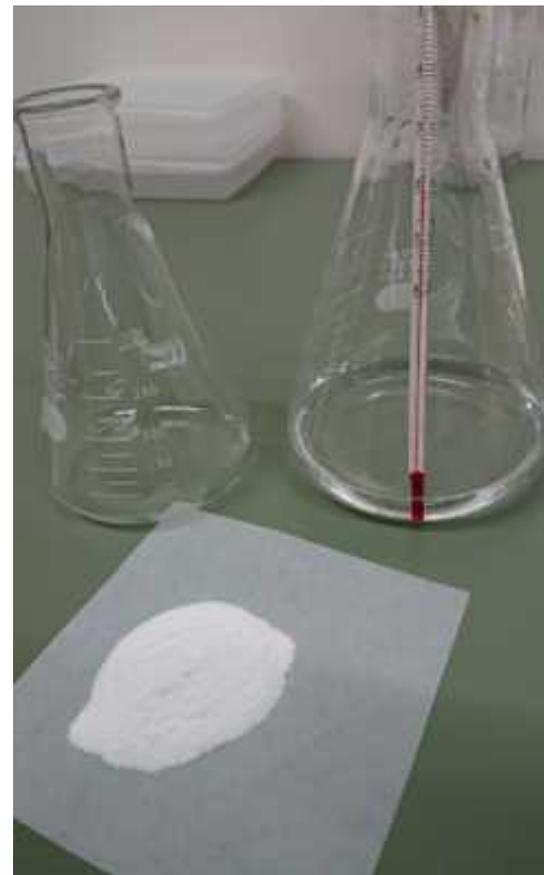


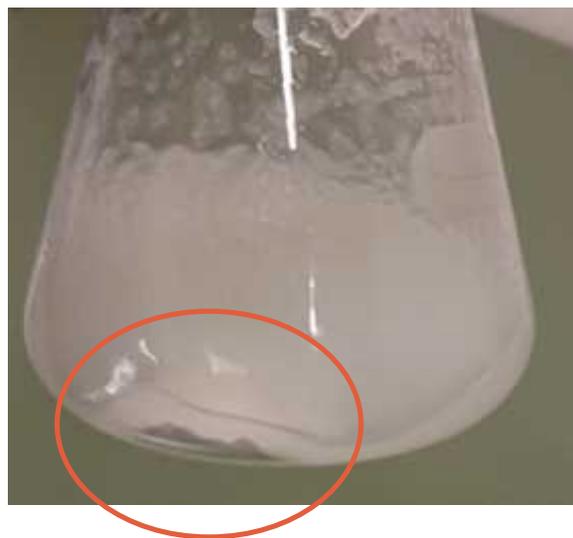
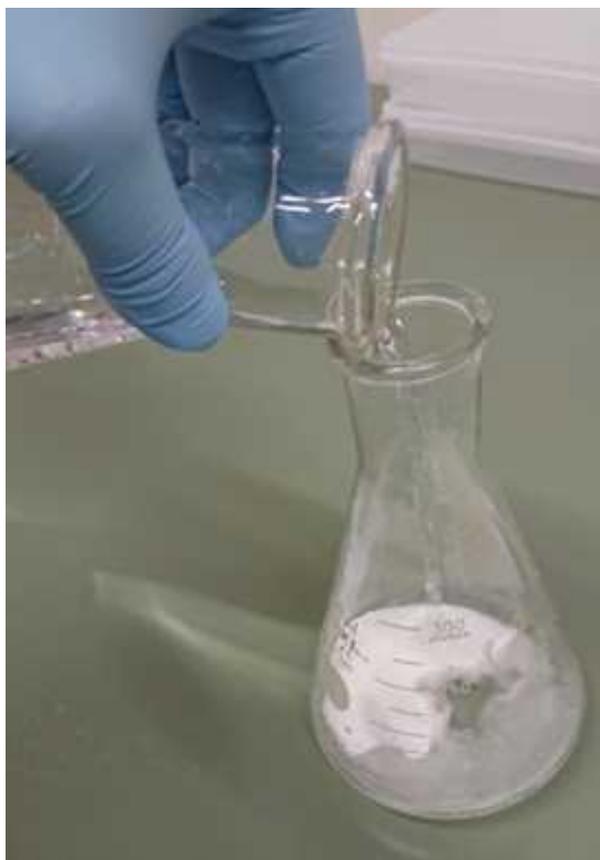
写真で見る アガロースゲル 作製ポイント

写真は、作製が難しい高濃度ゲル
(6% Agarose X ゲル) の例です。

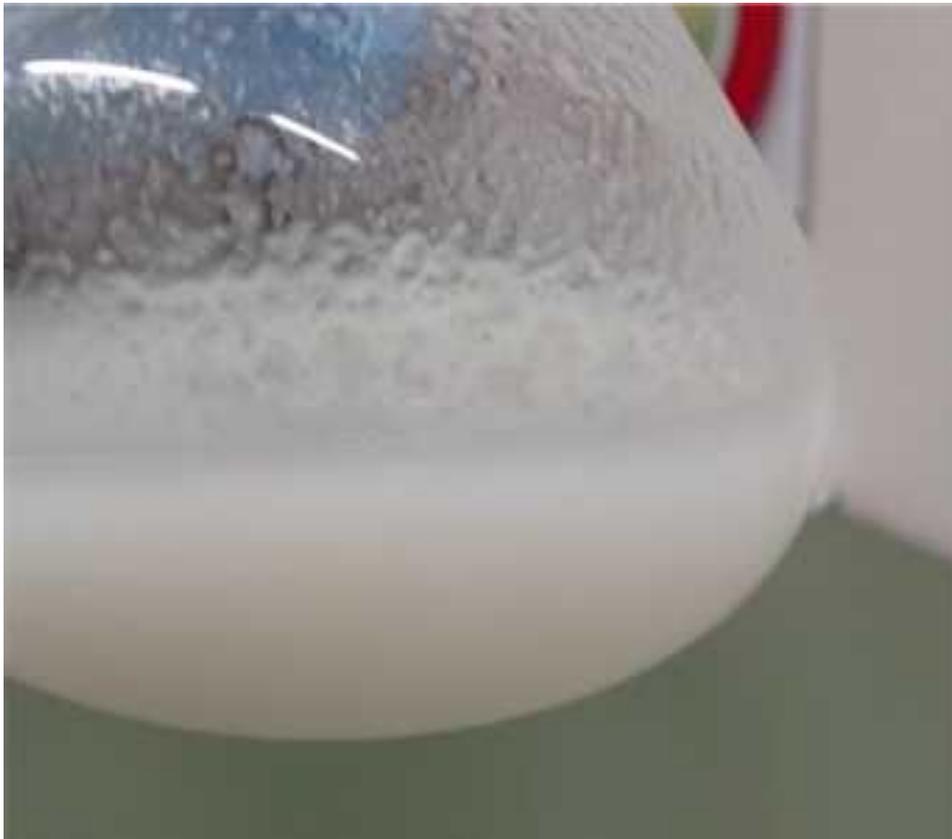


株式会社ニッポンジーン

乾いたフラスコにアガロース粉末を先に入れて、次にバッファーを加えます。
バッファーの液温が高いとダマになりやすいです。



アガロースが均一になるよう、よく振り混ぜてください。

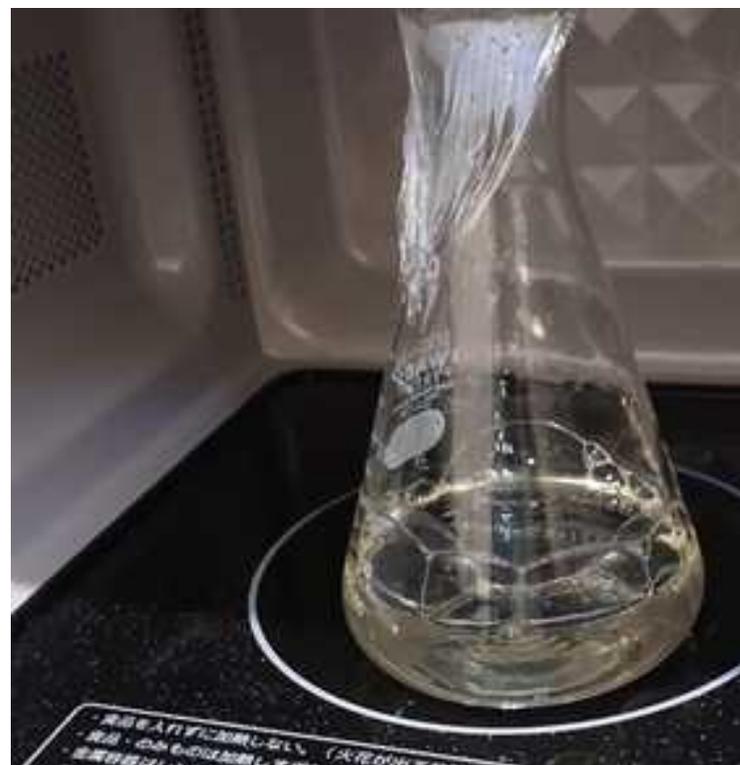


蒸発を防ぐため、容器にラップをし、
ピンホールを開けてから
Agaroseの溶解に進みます。

加熱するとかなり細かい泡が出てきます。



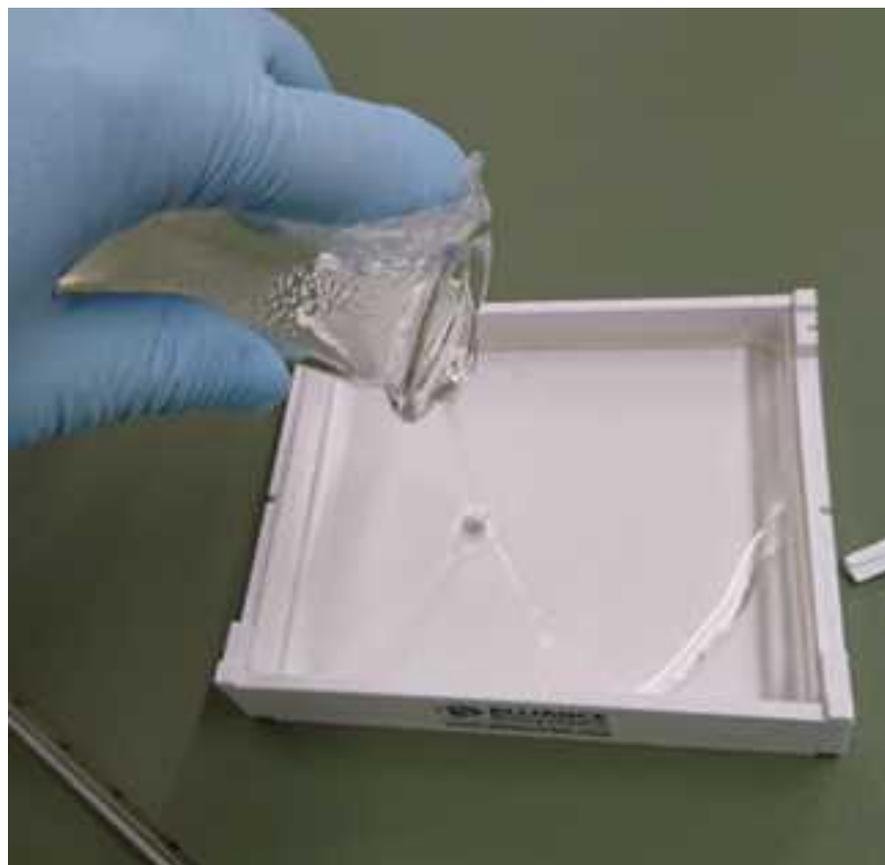
数回に分けて加熱してください。
泡が大きくなり全体が透明になってきます。



小さな粒粒がなければ、完全融解の状態です。



65°C程度になったらアガロースゲルをトレイに引きます。
温度が下がるとゲル化した部分と混ざってしまい均一なゲルができません。



ゲルが固まったらコームをゆっくり抜いて、完成です。



- 高濃度ゲルの場合、厚みは5 mm超えないようにします。ゲルの厚さを薄く(3 mm程度)すると、クリアな泳動パターンが得られます。
- 泳動の際は、温度を抑えてください。
(バッファー循環冷却型装置を使う、装置がない場合は低温室で行う、など)
- 染色の際も低温で行うようにします。